

ヒント



Mooicco9

2016.10.30

待ち合わせ

フミオとリンコが待ち合わせしていた。二人は付き合って10年。結婚間近だった。ニュースでは第三次世界大戦が始まった話題で持ちきり。きっかけは北朝鮮だ。僕は北朝鮮が許せないので自衛隊に入った。それがきっかけで別れた。最後に鍵を渡された。そしてキスをして去っていった。リンコは仕事が忙しく、毎日パソコンでアニメを作っている。最近ハマったのは龍の動画らしい。そして作り終わると、いつもなら僕の所にくるのだが、ここ最近は何も連絡が来なくなった。僕は銃を持ちイタリアに出撃した。僕はエースでほぼ制覇していた。だから戦争が終わっても生きている。日本に帰って来てリンコを探したが見つからない、どこへいったのかと探しまくったが見つからない。きっと戦争で死んでしまったんだろうと思っていた、そんな矢先一通の手紙が届いた、最後の私が渡した鍵で地球が爆発する。僕は驚いた何故なら部屋の鍵だと思っていたからだ。そして私は爆発させると書いてあった。僕はリンコに会いたかったのでこの鍵の穴を探せば会えるのではないかと考えた。でも手がかりがない。前に住んでいた部屋にヒントがあるんじゃないかと思ったので帰ってみた、部屋は戦争で燃えていた。それでも何かあるだろうと探してみた。そしたら宝石箱があった。まさかこれが地球爆発じゃないのかと疑って鍵を入れてみたが違った。果たしてリンコのものなんだろうか？鍵屋さんにいって開けてもらった、そしたら何かを察知するレーダーが入っていた。電源も入る。つけてみると、赤いLEDが光っている。リンコだ！僕は直感でそう思った。この近くにいる。生きていたのか？走って光る方に行ってみるとそこにはリンコがいた。「リンコ生きてたか」「私に構わないでって言ったでしょ」「北朝鮮は全滅を考えているらしい、戦争は終わったっていうけど、実はこれからなんだ」「実はねその鍵、北朝鮮から渡されたものなの、私もその話に乗る事にしたの」「地球爆発狙い・・・何で」「全滅なんて美しい死に方だと思わない？」「ん！確かに美しいな、でも、生きたい人もいるんじゃないか？」「生の世界があるし、死の世界もあるって言ったのはあなたでしょ、死んでも、死なないなら、死んだ方がましよ」「繰り返すなら、変わらないって事だ、また、命が必ず生まれるんだ」「生まれ変わって、新しい生き物になりたいの」「そうか、じゃーここでお別れだ」銃をリンコに向ける「辞めるか？」『バン！』足をフミオが打たれた。しまった！リンコは逃げた。「くそー、逃げられたか」レーダーも反応しない。リンコは何しにここに来たのかが気になった。ゆっくり見渡すとそこにはお守りがあった。その中を開けてみた。そしたら地図があった。アフリカ！多分爆発の穴はアフリカにあるまでもや直感で思った。家の何も戦争で燃えてないので、上司に連絡した。

上司が電話をとって「何だ」「わかった北朝鮮は本当に地球爆破を考えている」「僕が持っている鍵で地球が爆発できる」「その鍵で爆発しようとしている人間がリンコだ」「リンコ？誰なんだそれは？」「僕の嫁です」「お前は結婚していたのか？」「いえ、プロポーズ前です」「そうか、その鍵の穴はどこにあるんだ？」「わからないのですが、多分アフリカかと思います」「なぜだね。」「昔、アフリカの洞窟で鍵のある謎の洞窟があるとリンコは言っていました」「確信はあるのかね？」「いえ、ないです」「しばし、日本にいなさい、後で連絡する」「わかりました」僕は待てなかった。速攻でアフリカ行きのチケットを買い、アフリカへ飛んだ。どこだかわからないので、ジャングルを歩き続けた、何かヒントをと思ったが何も見つからない。そして動物保護団体が車で通った。「おーい」「何をしてるんだ？」「洞窟を探しています、知りませんか？」「とりあえず車に乗れと言われたので、乗った」そして事務所に行くとリンコが居た。「お待ちしていたわよ、そう、ここの近くにこの穴はある」『この保護団体も実はテロリスト集団よ』もう、お前の命はない、生きたい？死にたい？どっち？」僕は迷った、リンコと結婚したいし、この先の事も楽しみだ、でも、ここで死んでも全死、なら生きた方が特だ。そして北朝鮮を止めれば、命を救える。「い、生きたい」「そう、ならいいわ、コーヒー持って来なさい、日本にテロリストを送るわ、あの国、平和すぎてちっとも面白くないわね。すべて真似事よ。ちょっとしたニュースで心で笑って、顔ではいけません。本当は戦争が好きですって顔に書いてあるわ。真面目の反対は超暴力的って事よ」「だからって現実にする事ないじゃないか」「死にたいのよ、つまらないのよ、それなら本性見せてくれた方が楽しいじゃない」「それで、地球を爆破させるのか？」「するわ、明日よ」インカムで連絡がきた、日本に核弾頭ミサイルをぶちこむそうだ。そしてフランスにもミサイル発射出そうだ。僕は涙した。そして思った僕が鍵を回すと。

食事

2016 10.30

地球が爆発した。すべてが終わった日だ。

アフリカでリンコが穴のありかを教えてくれた。

僕はそこへ向かった。

リンコも行くのか？と聞いた。

私はいいわと言った。

僕は迷った。

リンコがフミオ回しなさい鍵をというので、「終わらせたい・・・本当に」というセリフを残した。

そして鍵のありかに行くと何だか僕が犯人のような気がして来た。

リンコに一回だけ、嘘を言った。僕のおじいさんは映画監督何だって、あれは嘘、おじいさんは趣味でカメラを楽しんでいただけだ。その後、何だか機嫌が悪かったきつと知っていたんだと思った。それだけ嘘を言った後は本当だ。なぜその嘘をついたのかというと章という名前で有名映画監督に同じ名前の監督がいたからだ。それで、きつとプライドが傷ついたんだと思った。

それが、僕が最後に鍵を回す時に思った事だ。

きつとこれが戦争が始まったきかけなんじゃないか、そう思った。

いざ、穴を目の前にすると意外にも落ち着いていた。

一つ息をして、今まで出会った人々の事を思い出した。

楽しかった事、辛かった事、そしたら落ち着いているのに涙が止まらなかった。

これでいいのか？こんな人生でいいのか？

自問自答した。

でも、僕が決断した理由は戦争で死んだ人が多かった事だ。

ミサイル、潜水艦による攻撃、空爆。

時代は進化してあつというまに人が死んでいく、そして両親が死んだのも一つの原因だ。

そして全部がなくなればこの世界はど一なるのか？それも知りたい。

そして、「愛してるぞー！をぉー！！」勢いで鍵をさし回した。

そして今きつと死の世界にいる

両親もいるし、リンコもいるし、飼っていた犬もいる

どう地球を改良しようか話している

やっぱあれだよな。何でもありだね宇宙って分身がいたり、空も飛べるし、死の世界もある。どうしよっか地球。俺はあれだな全部マルなんて宇宙っぽくない？家も転がるし。家の階段も板一枚で10階くらいは欲しいよね専用の板で上り下りできるようにそれでやっぱり学校みたいに全部同じ方が成績わかりやすいしね。

アメリカの大統領が死の世界で言った！『すべて鳥の形にする』なぜなら空を飛んでいた方がロマンがあるからだ！

そして生の世界が始まった。

「鳥の中の人間」

みんな寄って集って戦争じゃないって言っていたけど空を眺める景色は案外ハマっていた。

そして何より空を飛びながら、オードブルとワインは最高に幸せな時間だった。

規則で人間は空を飛んではいけない事、魔法も使ってはいけない事、鳥マシンの姿なら喧嘩してもいいとなった。

家も何もない。だから地球が見えて、すべて鳥だ。ビジネスは家族が中に入って戦う、世界一はなぜか中国に多かった。

そして銃やミサイルは全世界禁止、鳥にもつけてはいけない事になった。操作で勝負という時代だ。

そして、リンコに僕なりの個人用鳥マシンで愛の表現でプロポーズをしたんだが、何だか不機嫌そうだった。そして、リンコに連絡してリンコの鳥部屋で指輪を作ってプロポーズした。

両親もいたので、ご挨拶して両親の前で「生涯すべてを費やして幸せにします」と言ったら、意外にもあっさり「お願いします」と言っていた。何だか拍子が抜けたけどこれで落ち着けると思った。

結婚して私生活も落ち着いて一ヶ月。僕はこの宇宙は無くならないのか？と疑問を沸かした。リンコに相談した、「そう、私も思った」地球を爆発させてやっぱり死の世界があった。そして生きれる。大統領が鳥世界にしたけど、今度は何も無い世界ってのはどんななのか知りたくなった。って事は鳥を宇宙モードに変えて宇宙の鍵の穴を回せば宇宙が終わる。それだ、その先はまだ未知の世界だ。二人は鳥を宇宙モードに早速改良した。そして宇宙の鍵を探した。「きっと宇宙の鍵は宇宙だよ」「どこらへんにあるのかな？」「宇宙も壊れたくないしブラックホールよ」「死んでも死後の世界がある、そこで死ねば生の世界だ、死ぬのもあんまり怖くないじゃん」「って事は、ブラックホールの一番奥だ」「それまで耐えられるのか？鳥マシン」「空気は漏れないようにしたしポンプも積んだ、よし出発！」鳥がバタバタと羽を動かし空へと舞う、境界線を越え、宇宙へ出た、何とかなる、そう思った。「とりあえず真っ直ぐなんてどうひたすら」「そうだね」「ひたすら行ってみよう」「掃除機みたいなもんでしょ宇宙のって事は、私の部屋の掃除機はこの辺だからこっち」「だめだめ、いいかいこういうのはブラックホールの事を考えるんだよ、見てろよ、こっち行って、左に行って、結構まっすぐ行って軽く右行ってまた左行って、、、どうだ！」だめだ。「交代よ」「ここは真っ直ぐ、ちょっと鳥レーダー見て、右！どうだ！だめだ」「ちょっと研究が足りなかった見たいね、一回地球に戻って、宇宙研究会に相談しよう。」鳥がバタバタと地球に戻り出す。早速アポを取って、宇宙研究会との予定を入れた。会議には100名立ち会った。「あなたたちはなぜ？ブラックホールに行きたいんですか？」「この間、地球を爆破したのはこのフミオです。そして今生きていないですか。」「それって宇宙の謎のような気がして」「やっぱり宇宙には何かがあると思うんです」「なるほど」「それでブラックホールには鍵が隠されていると思うんですが、どう思いますか？」「僕たちもそれなりになぜ生きているのかというのは研究しています」「多分ブラックホールで合っています、それでこの日、ブラックホールが大きくなって入りやすい日、方向は東です。そのほかだと西に出るような感じでこっちは結構見つけにくいと思います」「では、この日にします」「これ方向を示すレーダーです」これがあればすんなり入れますよ」「わかりました」「そうそう、その先の鍵穴です、これはどこか調べていますか？」「それが、わからないんです」「やっぱり鳥マシンだと衛星も鳥ですし、鳥衛星でもまだ見つかっていないんですよ」「そうですか」話聞くとブラックホールから抜け出す事は容易ではないそうですよ、地球の重力を使って強力な磁石積んで一気にS極を解放すれば地球が引っ張ってくれますよ。この方法以外ブラックホールからは抜け出せないでしょうね」「出発は明後日ですね、頑張ってください」早速鳥マシンを改造してあっという間に出発の時が来た。

鍵の穴

よし、出発だ！「時間は大丈夫？」「何とかなってる、オッケーだね」「ちょっと待って、なんかシュノーケルって使えそうじゃない？、後なんか必要？」「宇宙の鍵の穴って、うーん、あっ！なんか空気吸いそうじゃない穴だけって事でビニール袋に空気入れて。よし、これでいい」
行きますか！GO!!

二人は改良鳥マシーンをバタバタさせ宇宙へと向かった。「レーダーによるとこっちね、後はレーダー通りに行けばあった」『ゴー』うわーこれがブラックホールかもう昔の衛星だとか宇宙人の死体もある宇宙船もあるなこの中に入るのは地球の中でも私達だけだ。「ウォー」ガタタタタタタタ 持ってくれ改造鳥マシーン羽はもげ、首はぶった切れ、私たちが作った無敵の丸玉が残った、「さあ、行くわよ！」丸玉からライトが照らされる、そうすると、何と死の世界があった。「あいた」死者が僕たちを読んでいる。磁石発射丸玉が磁石になってS極になる。とりあえずブラックホールから抜けられた。「多分だあの死者が鍵をもっているんじゃないか？ギリギリまで行ってみよう」よし。GO!!「ウォー」死者達が現れた今度は道中から死者がいる、鍵どこ？ひいひいあげないよー。奥を貫けば死の世界その丁度のところで停止ができれば・・・、フミオ死の世界の前で止められる？」S極とN極をコントロールすればできるはず。「よし、しかし死者

ってのも嘘くさいな」「なんか面白い事ない」「わかった今から、コントロールだ！」「S極N極とどうだ！」丸玉は止まった。「これをゆっくりコントロールして」そうすると銀色の鍵が沢山飛んで来た、偽物の鍵。すると金の鍵がゆーくり飛んできた、あっあった！「俺が行く」酸素ボンベをつけてドアを開けた、フミオはブラックホールの中に突っ込んで行くそして、金鍵を取った。そして足にはロープがついてる。リンコ引けー」丸玉は宇宙へと戻った。そしてフミオは死んだ手には金の鍵があった。「フミオ待っててね絶対宇宙を無くして見せるから」そしてリンコは鍵の穴を探した。フミオが言っていた空気袋を前にぶる下げて空気が向かう先へ辿り着いた。そこはこの世とは思えないほど美しく空気もあり動物達も居た。疲れたので動物達と戯れたり、水を飲んだりしてゆっくりとした。そして動物達が宇宙の鍵の穴まで案内してくれた。「私は思った、きっとフミオがこの世を作った人なんだと思った、変態で馬鹿でドジなくせに、優しいし真面目だし、意外としっかりしてる、似ている人とかいるけどやっぱりフミオは一人しかいない、あいつのせいだすべて」そして「今まで、ありがとう、みんなをよろしく」そうして鍵を回して、『宇宙は終わった』。そしてこの世界には何も生まれてこなかった。0になった訳である。